

アスファルト混合物報告書

令和 8 年 2 月 13 日

様

製造会社

所在地 鳥取市南隈835

工場名 共同アスコン

配合の設計条件				
混合物の種類別	骨材の最大寸法	基準	密度	混合温度
再生密粒度アスコン(20)II型	20 mm	2.368	g/cm ³	173 °C
空隙率	飽和度	安定度	フロー値	
3.7 %	77.3 %	10.95	kg	30 <small>1/100cm</small>
D	S	値		
6,773	回/mm			
使用材料及び配合表				
使用材料名	産地名	生産会社	配合率	備考
ストレートアスファルト				
改質アスファルトII型	レジフィックス	昭和瀝青工業(株)	4.4 %	
石粉	岡山県真庭市宮地	中山石灰工業(株)	5.00 %	
5号砕石	岡山県赤磐市滝山	丸紅産業(有)	15.00 %	
6号砕石	岡山県赤磐市滝山	丸紅産業(有)	20.00 %	
7号砕石	岡山県赤磐市滝山	丸紅産業(有)	8.00 %	
砕砂	岡山県赤磐市滝山	丸紅産業(有)	15.00 %	
海砂	佐賀県唐津市	(株)住若	17.00 %	
再生骨材	鳥取県鳥取市南隈	共同アスコン	20.00 %	
添加剤()	山口県周南市	出光興産(株)	0.10 %	

アスファルト混合物配合設計書

混 合 物 : 再生密粒度アスコン(20)(50)改質Ⅱ型

共同企業体 共同アスコン

アスファルト混合物配合設計報告書

報告年月日 2026年 2月

混合物の種類 再生密粒度アスファルト混合物(20)[50]改質II型

報告者 深山 諄武

1. 使用材料の種類及び産地

材料の種類	製造会社名	産地	材質
5号碎石	丸紅産業(有)	岡山県赤磐市滝山	砂岩系硬質粘板岩
6号碎石	丸紅産業(有)	岡山県赤磐市滝山	砂岩系硬質粘板岩
7号碎石	丸紅産業(有)	岡山県赤磐市滝山	砂岩系硬質粘板岩
砕砂	丸紅産業(有)	岡山県赤磐市滝山	砂岩系硬質粘板岩
砂	備住若	佐賀県唐津市	海砂
再生骨材	共同アスコン	鳥取県鳥取市南隅	アスファルト塊
石粉	中山石灰工業(株)	岡山県真庭市宮地	石灰石
ポリマー改質アスファルトII型	昭和瀝青工業(株)	兵庫県姫路市網干	ホリマー改質アスフ
ダイアナプロセスオイル NP-250	出光興産(株)	山口県周南市	再生用添加剤

2. 配合割合

材 料	5号碎石	6号碎石	7号碎石	砕砂	砂	再生骨材	石粉		計
配 合 割 合 %	15.0	20.0	8.0	15.0	17.0	20.0	5.0		100.0

3. 合成粒度

ふるい目	53 mm	37.5	31.5	26.5	19	13.2	9.5	4.75	2.36	1.18	600 μm	300	150	75
通過質量百分率%				100.0	99.1	85.7		59.6	45.0		23.3	14.1	8.9	6.0
目 標 粒 度				100	95~100	75~90		45~65	35~50		18~30	10~21	6~16	4~8

4. 現場配合アスファルト量及び製造の温度

アスファルト量 (%)	密 度 (g/cm ³)	空 隙 率 (%)	飽 和 度 (%)	安 定 度 (kN)	フ ロー 値 (1/100cm)	理 論 密 度 (g/cm ³)	突 固 め 回 数 (回)
5.5	2.368	3.7	77.3	10.95	30	2.459	50
		3~6	70~85	4.90以上	20~40		
As加熱温度 (°C)	骨材加熱温度 (°C)	混合物温度 (°C)	動的安定度 (回/mm)				
173	195	173	6773				
163~183	185~205	163~183					

骨材試験成績表

目的 配合設計

報告年月日 2026年 2月

混合物の種類 再生密粒度アスファルト混合物(20)[50]改質II型

試験者 深山 諄武

試験項目		5号碎石	6号碎石	7号碎石	砕砂	砂	再生骨材	石粉	
密度	表乾	2.668	2.672	2.650	2.643	2.579	0.000	0.000	
	かさ	2.648	2.652	2.622	2.603	2.531	0.000	0.000	
	見掛	2.701	2.706	2.697	2.713	2.659	0.000	2.720	
吸水率%		0.75	0.76	1.06	1.56	1.89	0.00	—	
すりへり減量%		9.0	10.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
安定性%		0.6	1.2	0.3	1.0	1.2	0.0	0.0	
微粒分量試験%		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	0.0	
軟石含有量%		1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
扁平細長石片%		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
水分量%		—	—	—	—	—	—	0.12	
単位容積質量		1.600	1.600	1.500	1.800	1.600	0.000	0.000	
粘土塊量%		0.01	0.03	0.02	0.04	0.15	0.00	0.00	

ふるい目の開き		5号碎石	6号碎石	7号碎石	砕砂	砂	再生骨材	石粉	
通過質量百分率%	53 mm								
	37.5								
	31.5								
	26.5	100.0							
	19	94.2	100.0						
	13.2	8.2	97.7	100.0		100.0	100.0		
	9.5								
	4.75		4.9	90.4	100.0	98.5	73.6		
	2.36			2.0	89.4	92.0	53.9		
	1.18								
	600 μm				32.8	38.5	34.5		
	300				18.1	9.8	23.3	100.0	
	150				9.2	1.9	11.3	97.1	
	75				3.9	0.6	5.7	83.0	

改質アスファルト性状表

目的 配合設計

報告年月日 2026年 2月

混合物の種類 再生密粒度アスファルト混合物(20)[50]改質Ⅱ型

試験者 深山 諄武

<使用する改質アスファルトの性状>

種類・品名		ポリマー改質アスファルトⅡ型	
プラントミックス タイプの場合	使用アスファルトの種類	---	
	使用改質剤名	---	
	WETでの改質材添加率(%)	---	
	DRYでの改質材添加率(%)	---	
項目		試験値	規格値
針入度(25℃)	(1/10mm)	49	40以上
軟化点	(℃)	58.0	56.0以上
伸度(7℃)	(cm)	---	---
伸度(15℃)	(cm)	73+	30以上
引火点	(℃)	360	260以上
薄膜加熱質量変化率	(%)	0.00	0.60以下
薄膜加熱針入度残留率	(%)	73.5	65.0以上
タフネス(25℃)	(N・m)	22.8	8.0以上
テナシティ(25℃)	(N・m)	17.0	4.0以上
密度(15℃)	(g/cm ³)	1.035	---
マーシャル最適混合温度範囲	(℃)	165~180	---
マーシャル最適締固め温度範囲	(℃)	155~165	---
フラース脆化点	(℃)	0	---

骨材の粒径加積曲線図

目的 配合設計 (室内)

報告年月日 2026年 2月

混合物の種類 再生密粒度アスファルト混合物(20)[50]改質II型

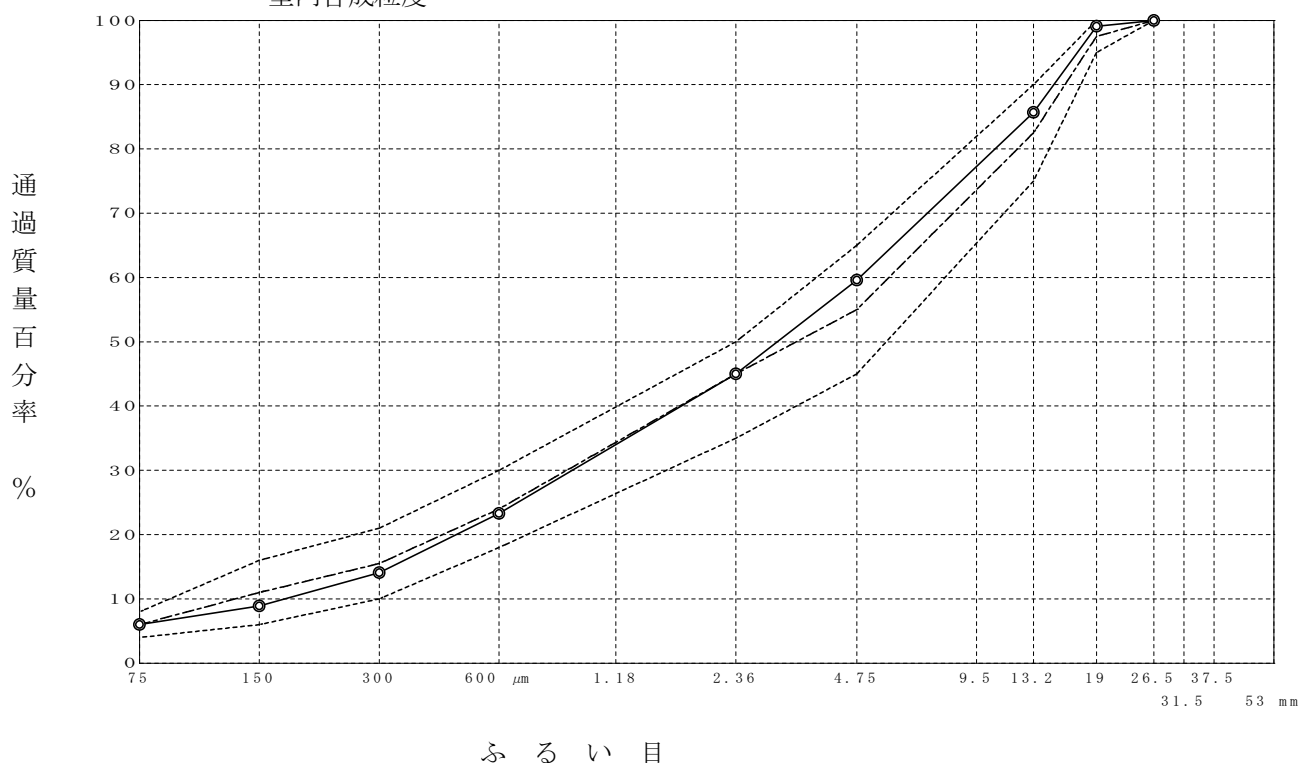
試験者 深山 諄武

5. 合成粒度

ふるい目	合成粒度		目標粒度	粒度範囲
		室内合成粒度		
53 mm				
37.5				
31.5				
26.5		100.0	100.0	100
19		99.1	97.5	95 ~ 100
13.2		85.7	82.5	75 ~ 90
9.5				
4.75		59.6	55.0	45 ~ 65
2.36		45.0	45.0	35 ~ 50
1.18				
600 μm		23.3	24.0	18 ~ 30
300		14.1	15.5	10 ~ 21
150		8.9	11.0	6 ~ 16
75		6.0	6.0	4 ~ 8

6. 粒径加積曲線図

..... 粒度範囲
 - - - - - 目標粒度
 ———— 室内合成粒度



再生骨材の性状試験結果

目的 配合設計

報告年月日 2026年 2月

混合物の種類 再生密粒度アスファルト混合物(20)[50]改質II型

試験者 深山 諄武

試験項目	材料名	再生骨材			規格値
通過質量百分率%	53 mm				
	37.5				
	31.5				
	26.5				
	19				
	13.2	100.0			
	9.5				
	4.75	73.6			
	2.36	53.9			
	1.18				
	600 μm	34.5			
	300	23.3			
	150	11.3			
	75	5.7			
旧アスファルト含有率 %		4.78			3.8以上
旧アスファルト針入度(25℃) 1/10mm		22			20以上
微粒分量試験による損失量 %		3.1			5以下
最大密度		2.417			

再生添加剤の性状

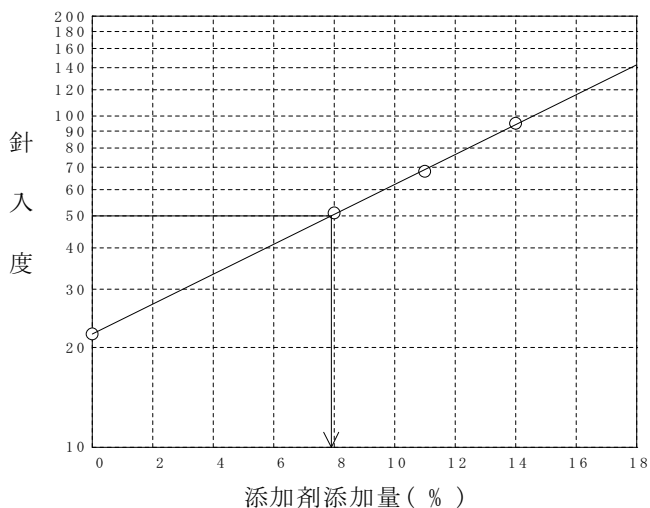
項目	試験値	標準的性状
動粘度 (60℃) mm ² /s	88.30	80~1000
引火点 ℃	266	250以上
薄膜加熱後の粘度比 (60℃)	1.10	2以下
薄膜加熱質量変化率 %	-0.78	±3%以内
密度 (15℃) g/cm ³	0.910	

再生アスファルトの性状

項目	試験値	品質規格
針入度 (25℃) 1/10mm	50	40以上
軟化点 ℃	56.5	56.0以上
伸度 (15℃) cm	78+	30以上
トルエン可溶分 %		---
引火点 ℃	352	260以上
薄膜加熱質量変化率 %	0.03	0.60以下
薄膜加熱針入度残留率 %	76.0	65.0以上
蒸発後の針入度比 %		---
密度 (15℃) g/cm ³	1.035	---
動粘度	(120℃)	---
	(150℃)	---
	(180℃)	---

針入度と添加剤添加量の関係

添加剤量 (%)	0	8	11	14
針入度 (1/10mm)	22	51	68	95



目標針入度になる添加剤量	
対アスファルト	対混合物
7.90	0.08

混合物の理論最大密度計算表

目的 配合設計

報告年月日 2026年 2月

混合物の種類 再生密粒度アスファルト混合物(20)[50]改質II型

試験者 深山 諄武

骨材の種類	A 骨材のみ	B(旧アスファルト含む)
5号砕石	15.0	15.00
6号砕石	20.0	20.00
7号砕石	8.0	8.00
砕砂	15.0	15.00
砂	17.0	17.00
再生骨材	20.0	21.00
石粉	5.0	5.00
計	100.0	101.00
設計針入度 1/10mm		50
旧アスファルト量(外割%)		1.00
再生用添加剤量(対アスファルト量) %		7.90
再生用添加剤量(対再生混合物) (外割%)		0.08

OAC

再生アスファルト量 (%)	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	5.5
再生アスファルト量(外割%)	4.71	5.26	5.82	6.38	6.95	5.82
旧アスファルト量(外割%)	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
再生用添加剤量(外割%)	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08
新アスファルト量(外割%)	3.63	4.18	4.74	5.30	5.87	4.74

① 骨材の種類	② 配合率(%)	③ 計算に用いる密度	④ ②/③
5号砕石	15.00	2.701	5.553
6号砕石	20.00	2.706	7.391
7号砕石	8.00	2.697	2.966
砕砂	15.00	2.713	5.529
砂	17.00	2.659	6.393
再生骨材	21.00	2.417	8.688
石粉	5.00	2.720	1.838
ダイアナプロセスオイル NP-250	0.08	0.910	0.088
Σ②=	101.08	Σ④=	38.446

⑤ 新アスファルト量(%)	⑥ 新アスファルトの密度	⑦ ⑤/⑥	⑧ Σ④	⑨ ⑦+⑧	⑩ 理論最大密度(Σ②+⑤)/⑨
3.63	1.035	3.507	38.446	41.953	2.496
4.18		4.039		42.485	2.478
4.74		4.580		43.026	2.459
5.30		5.121		43.567	2.442
5.87		5.671		44.117	2.424
OAC 4.74		4.580		43.026	2.459

マーシャル安定度試験

目的 配合設計 (室内)

報告年月日 2026年 2月

混合物の種類 再生密粒度アスファルト混合物(20)[50]改質II型

試験者 深山 諄武

アスファルトの種類 再生改質アスファルトII型 アスファルトの密度(A) 1.035 アスファルトの温度 173℃

骨材の温度 195℃ 突固め温度 160℃ 突固め回数 50回 力計の係数(B) 0.132 kN

試験条件	供試体番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦ ⑧		⑨	⑩	⑪	⑫	⑬ ⑭		⑮	⑯		
		アスファルト量 (%)	供試体平均厚 (cm)	空中質量 (g)	水中質量 (g)	表乾質量 (g)	容積 (cc)	かさ	理論	ア容スファルト積 (%)	空隙率 (%)	骨材間隙率 (%)	飽和度 (%)	力計の読み	安定度	安定度	フロー値	安定度/フロー	
							⑤-④	③/⑥		$\frac{① \times ⑦}{(A)}$		⑨+⑩	$\frac{⑫}{⑪} \times 100$		(B) × ⑭		$\frac{1}{100} \text{ cm}$	(kN/m)	
標準	1		1200.8	688.8	1202.2	513.4	2.339							70	9.24	24			
	2	4.5	1204.9	694.0	1206.5	512.5	2.351							78	10.30	23			
	3		1200.7	690.7	1201.9	511.2	2.349								75	9.90	24		
	平均							2.346	2.496	10.2	6.0	16.2	63.0			9.81	24	4088	
	4	5.0	1204.6	695.7	1205.7	510.0	2.362								82	10.82	27		
5	1204.4		694.7	1205.7	511.0	2.357								81	10.69	28			
6	1206.1		696.4	1207.7	511.3	2.359								79	10.43	26			
平均							2.359	2.478	11.4	4.8	16.2	70.4			10.65	27	3944		
標準	7	5.5	1213.9	703.5	1215.5	512.0	2.371								86	11.35	27		
	8		1210.1	701.5	1211.4	509.9	2.373								85	11.22	26		
	9		1211.2	700.0	1212.1	512.1	2.365								82	10.82	31		
	平均						2.370	2.459	12.6	3.6	16.2	77.8			11.13	28	3975		
標準	10	6.0	1217.5	706.0	1218.4	512.4	2.376								86	11.35	29		
	11		1218.2	704.9	1219.2	514.3	2.369								83	10.96	32		
	12		1213.5	701.2	1213.8	512.6	2.367								80	10.56	32		
	平均						2.371	2.442	13.7	2.9	16.6	82.5			10.96	31	3535		
標準	13	6.5	1215.3	702.5	1216.0	513.5	2.367								81	10.69	33		
	14		1215.6	700.3	1216.3	516.0	2.356								76	10.03	35		
	15		1219.4	702.8	1219.8	517.0	2.359								78	10.30	34		
	平均						2.361	2.424	14.8	2.6	17.4	85.1			10.34	34	3041		

$$\textcircled{10} = (1 - \textcircled{7} / \textcircled{8}) \times 100$$

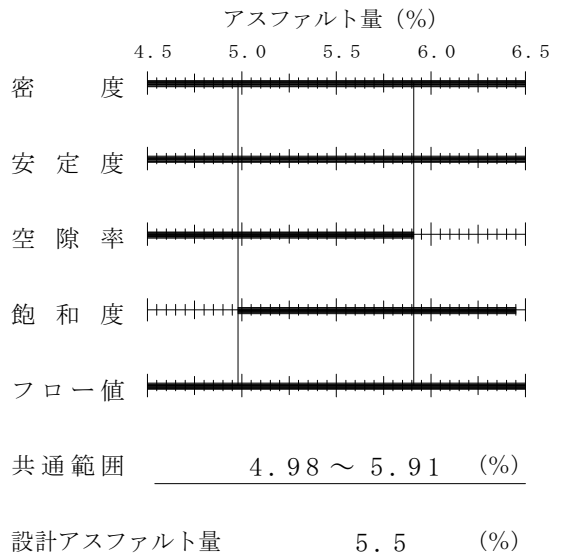
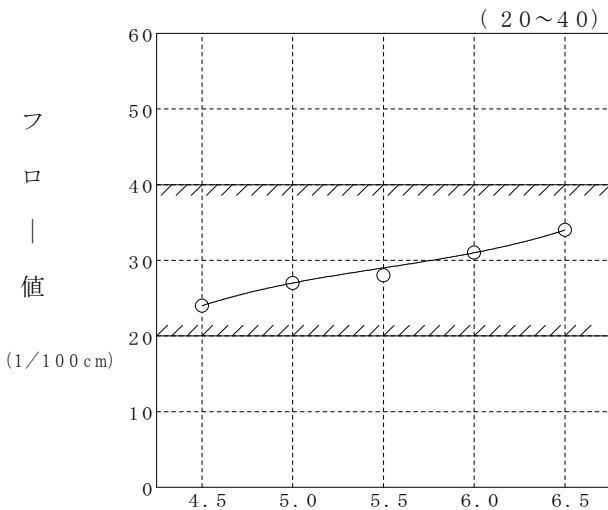
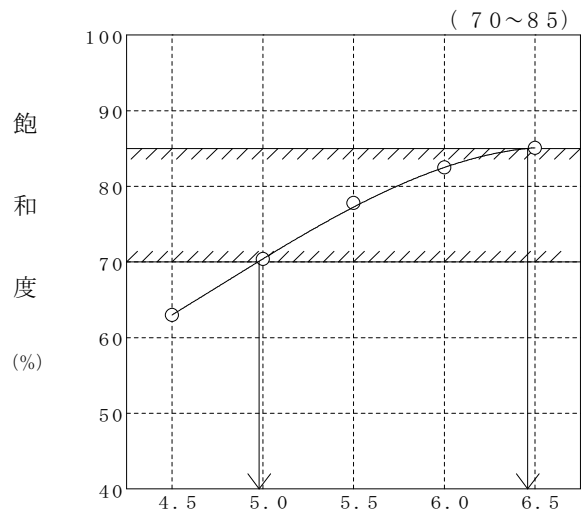
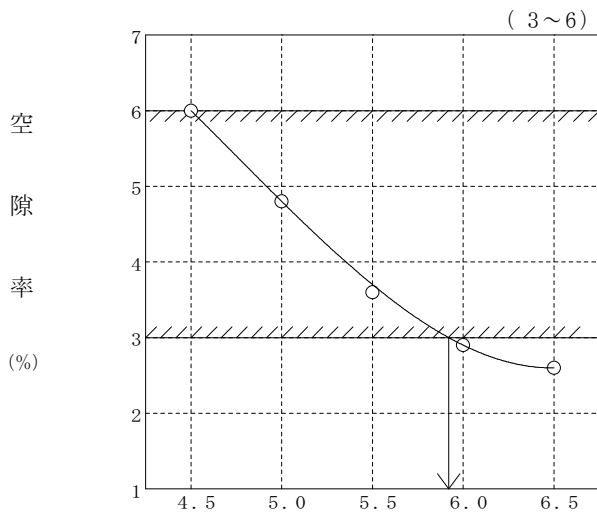
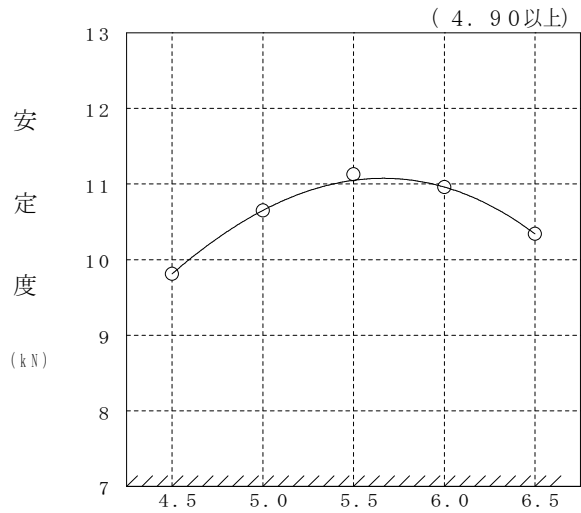
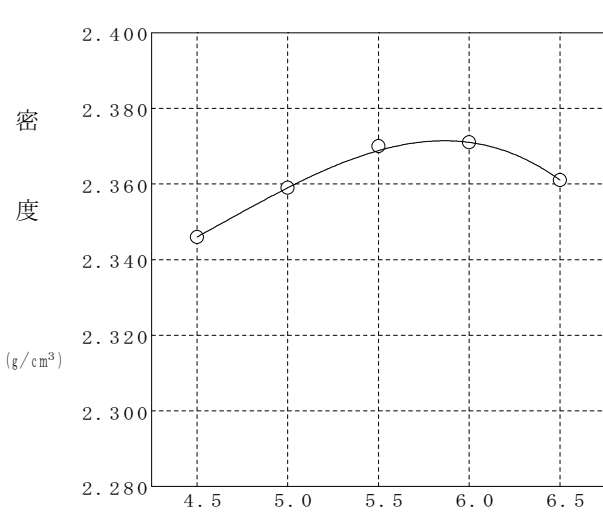
マーシャル安定度試験

目的 配合設計 (室内)

報告年月日 2026年 2月

混合物の種類 再生密粒度アスファルト混合物 (20) [50] 改質II型

試験者 深山 諄武



アスファルト量 (%)

骨材の粒径加積曲線図

目的 配合設計（現場）

報告年月日 2026年 2月

混合物の種類 再生密粒度アスファルト混合物（20）[50]改質Ⅱ型

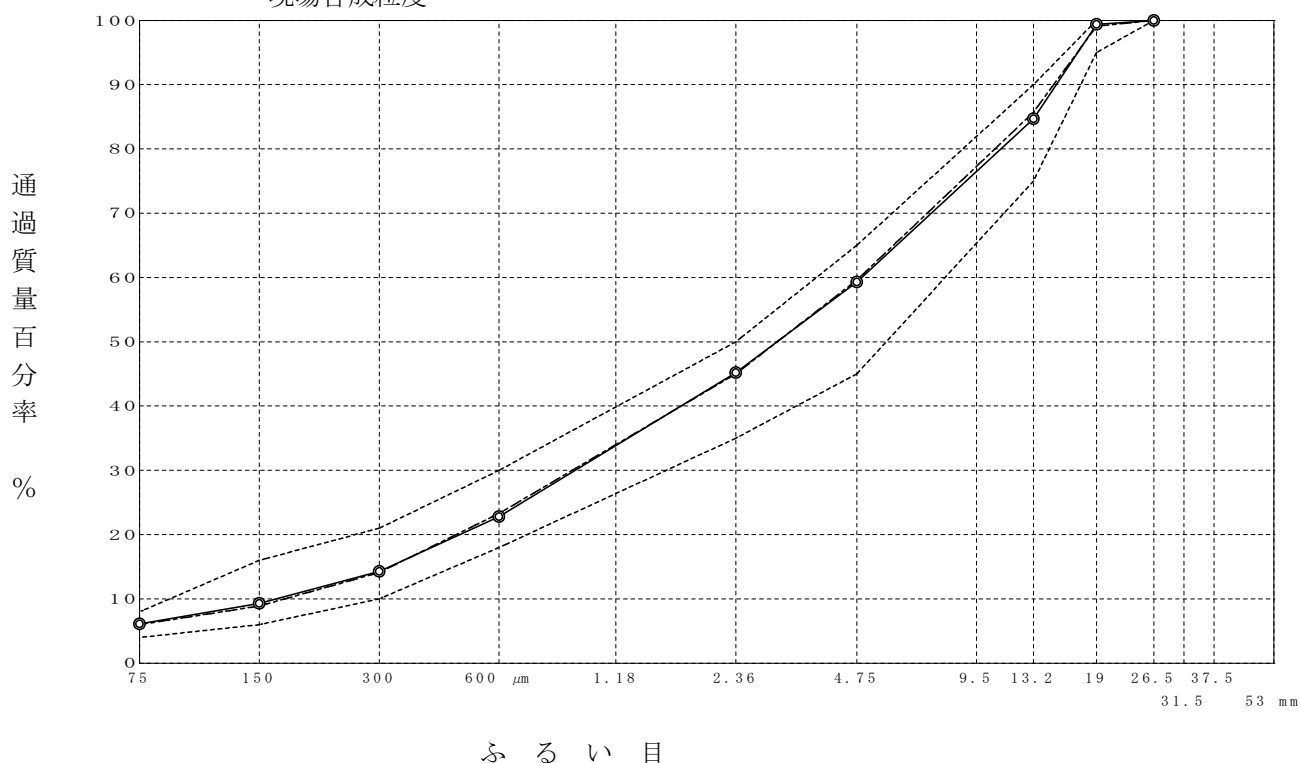
試験者 深山 諄武

5. 合成粒度

ふるい目	合成粒度		目標粒度	粒度範囲
		現場合成粒度		
53 mm				
37.5				
31.5				
26.5		100.0	100.0	100
19		99.4	99.1	95 ~ 100
13.2		84.7	85.7	75 ~ 90
9.5				
4.75		59.3	59.6	45 ~ 65
2.36		45.2	45.0	35 ~ 50
1.18				
600 μm		22.8	23.3	18 ~ 30
300		14.3	14.1	10 ~ 21
150		9.3	8.9	6 ~ 16
75		6.1	6.0	4 ~ 8

6. 粒径加積曲線図

..... 粒度範囲
 - - - - - 目標粒度
 ———— 現場合成粒度



混合物の理論最大密度計算表

目的 配合設計

報告年月日 2026年 2月

混合物の種類 再生密粒度アスファルト混合物(20)[50]改質II型

試験者 深山 諄武

骨材の種類	A 骨材のみ	B(旧アスファルト含む)
5号砕石	15.0	15.00
6号砕石	20.0	20.00
7号砕石	8.0	8.00
砕砂	15.0	15.00
砂	17.0	17.00
再生骨材	20.0	21.00
石粉	5.0	5.00
計	100.0	101.00
設計針入度 1/10mm		50
旧アスファルト量(外割%)		1.00
再生用添加剤量(対アスファルト量) %		7.90
再生用添加剤量(対再生混合物) (外割%)		0.08

再生アスファルト量 (%)	5.5				
再生アスファルト量(外割%)	5.82				
旧アスファルト量(外割%)	1.00				
再生用添加剤量(外割%)	0.08				
新アスファルト量(外割%)	4.74				

① 骨材の種類	② 配合率(%)	③ 計算に用いる密度	④ ②/③
5号砕石	15.00	2.701	5.553
6号砕石	20.00	2.706	7.391
7号砕石	8.00	2.697	2.966
砕砂	15.00	2.713	5.529
砂	17.00	2.659	6.393
再生骨材	21.00	2.417	8.688
石粉	5.00	2.720	1.838
ダイアナプロセスオイル NP-250	0.08	0.910	0.088
Σ②=	101.08	Σ④=	38.446

⑤ 新アスファルト量(%)	⑥ 新アスファルトの密度	⑦ ⑤/⑥	⑧ Σ④	⑨ ⑦+⑧	⑩ 理論最大密度(Σ②+⑤)/⑨
4.74	1.035	4.580	38.446	43.026	2.459

マーシャル安定度試験

目的 配合設計 (現場)

報告年月日 2026年 2月

混合物の種類 再生密粒度アスファルト混合物(20)[50]改質II型

試験者 深山 諄武

アスファルトの種類 再生改質アスファルトII型 アスファルトの密度(A) 1.035 アスファルトの温度 173℃

骨材の温度 190℃ 突固め温度 160℃ 突固め回数 50回 力計の係数(B) 0.132 kN

試験条件	供試体番号	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦ ⑧		⑨	⑩	⑪	⑫	⑬ ⑭		⑮	⑯	
		アスファルト量 (%)	供試体平均厚 (cm)	空中質量 (g)	水中質量 (g)	表乾質量 (g)	容積 (cc)	かさ	理論	ア容アスファルト積 (%)	空隙率 (%)	骨材間隙率 (%)	飽和度 (%)	力計の読み	安定度	安定度	フロー値	安定度/フロー
							⑤-④	③/⑥		$\frac{① \times ⑦}{(A)}$		⑨+⑩	$\frac{⑨}{⑩} \times 100$		(B) × ⑭		$\frac{1}{100} \text{ cm}$	(kN/m)
標準	1			1216.1	703.5	1217.2	513.7	2.367							81	10.69	32	
	2	5.5		1215.5	704.0	1216.7	512.7	2.371							86	11.35	29	
	3			1216.7	704.0	1218.3	514.3	2.366							82	10.82	28	
	平均																	
	平均							2.368	2.459	12.6	3.7	16.3	77.3		10.95	30	3650	
	平均																	
	平均																	
	平均																	
	平均																	

⑩ = (1 - ⑦/⑧) × 100

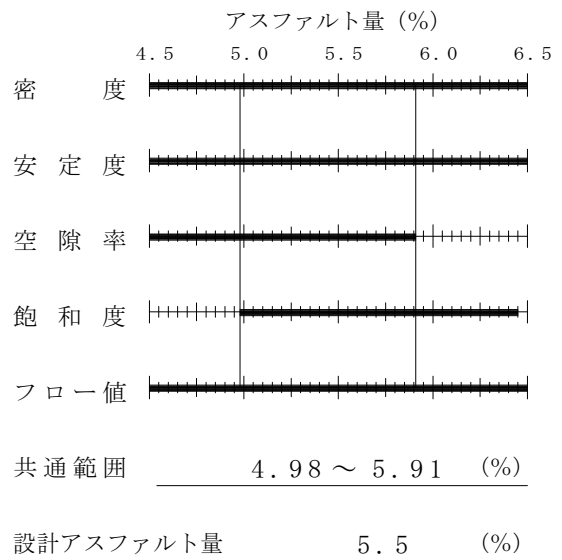
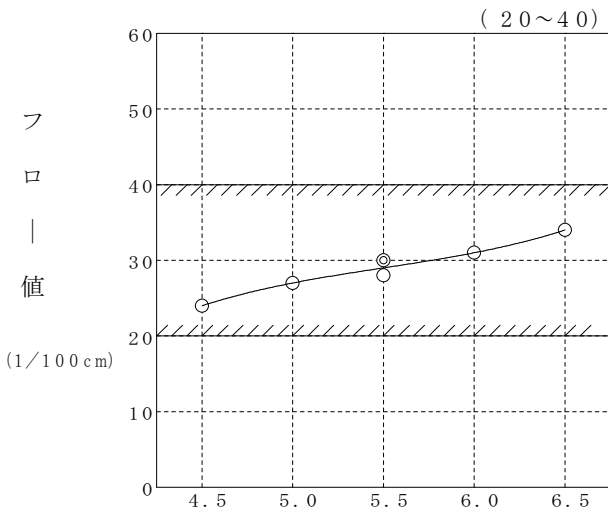
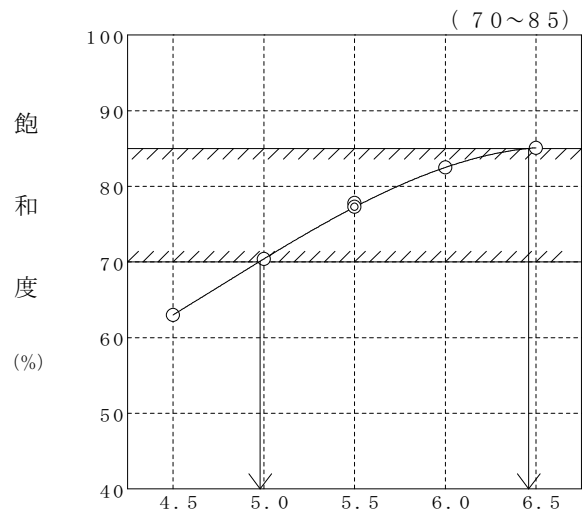
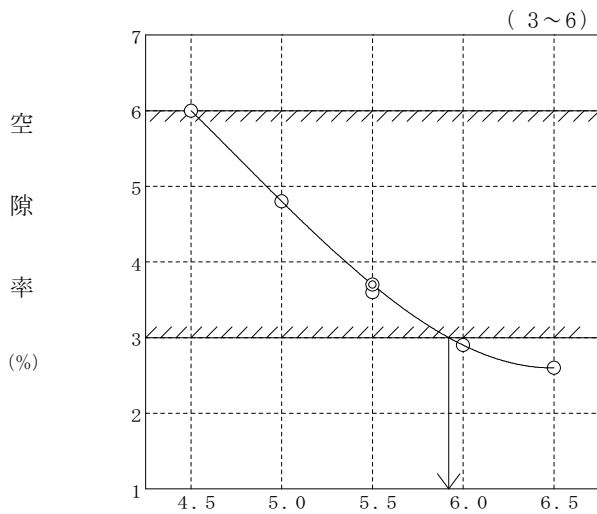
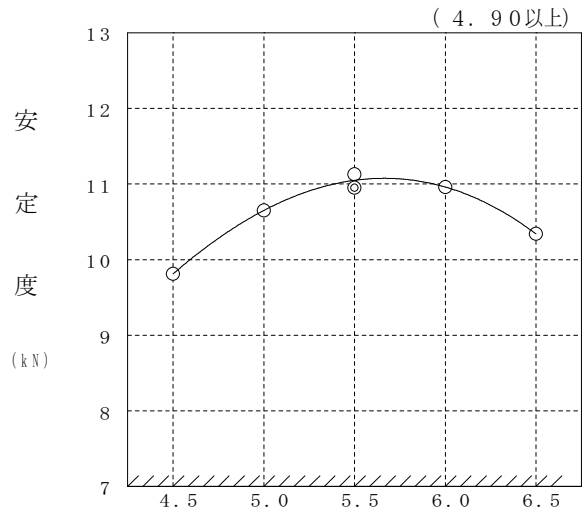
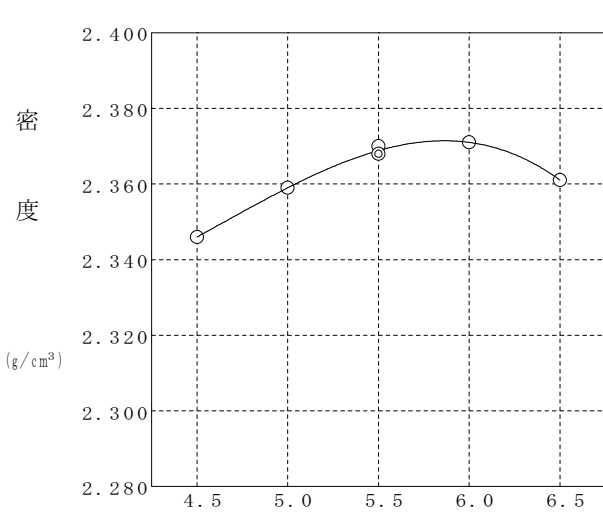
マーシャル安定度試験

目的 配合設計 (現場)

報告年月日 2026年 2月

混合物の種類 再生密粒度アスファルト混合物(20)[50]改質II型

試験者 深山 諄武



アスファルト量 (%)

ホイールトラッキング試験

調査名・目的 配合設計

報告年月日 2026年 2月

混合物の種類 再生密粒度アスファルト混合物(20)[50]改質II型

試験者 深山 諄武

走行方式 チェーン式 タイヤゴム硬度 78±2

載荷荷重 686N(接地圧 0.63MPa) 載荷方法 垂直

供試体の種類 室内作製 室内養生 12時間

供試体の寸法 長さ300 幅300 厚さ50(mm) 走行回数(A) 42回/分

試験温度 60℃ 養生時間 6時間 試験時間 60分 基準密度(B) 2.368 g/cm³

供試体番号				①	②	③	平均	
供 試 体 作 製	①供試体質量 (g)			10691	10661	10625		
	②水中質量 (g)			6218	6178	6171		
	③表乾質量 (g)			10714	10685	10652		
	④供試体体積 (cm ³)			(③-②) × 1	4496	4507	4481	
	⑤供試体密度 (g/cm ³)			①/④	2.378	2.365	2.371	2.371
	⑥締固め度 (%)			⑤/(B) × 100	100.4	99.9	100.1	100.1
ホ イ ー ル ト ラ ッ キ ン グ 試 験	走 行 時 間 (分)	0 5 10 15 30 45 60	変 形 量 (mm)	⑦ d 0				
				⑧ d 5	1.05	0.88	0.64	
				⑨ d 10	1.27	1.12	0.78	
				⑩ d 15	1.53	1.31	0.91	
				⑪ d 30	1.78	1.52	1.15	
				⑫ d 45	1.94	1.80	1.29	
				⑬ d 60	2.08	1.95	1.42	
	⑭圧密変形量 (mm)			⑫×4-⑬×3	1.52	1.35	0.90	⑮ 1.26
⑯動的安定度 (回/mm)			(A) × 15 × 1.5 / (⑬-⑫)	X 1 6750	X 2 6300	X 3 7269	⑰ 6773	
⑱平均値との差の平方			(⑰-X _i) ²	529	223729	246016	470274	
⑲標準偏差			$s = \sqrt{\sum ⑱ / n}$	395.9	変動係数 (%)	$c_v = ⑲ / ⑰ \times 100$	5.8	
時間-変形量曲線の形状				1 上凸型	2 直線型	3 変曲型		

現場配合の決定

目的配合設計

報告年月日 2026年 2月

混合物の種類 再生密粒度アスファルト混合物(20)[50]改質Ⅱ型

試験者 深山 諄武

1バッチ 1000 kg

	骨材配合比(%)	外割配合比(%)	内割配合比(%)	1バッチ質量(kg)	骨材累加質量(kg)
4 ビン	15.0	15.00	14.18	142	142
3 ビン	20.0	20.00	18.89	189	331
2 ビン	10.0	10.00	9.45	95	426
1 ビン	30.0	30.00	28.35	284	710
再生骨材	20.0	21.00	19.85	198	198
回収ダスト	1.0	1.00	0.95	9.0	9.0
石粉	4.0	4.00	3.78	38.0	47.0
旧アスファルト		(1.00)	(0.95)		
再生用添加剤		0.08	0.08	1.0	1.0
新アスファルト		4.74	4.47	44.0	44.0
合計	100.0	105.82	100.00	1000.0	1000.0

- (1) 混合温度・・・・・・・・・・ アスファルト製造業者の掲示する条件の範囲の中から選ぶならば、
165℃ ～ 180℃となるが、舗装時期、運搬距離等を考慮して混合温度(指定温度)を 173 ± 10℃とする。
- (2) 再生骨材加熱温度・・・・・・・・ 過去の製造実績により 150 ± 10℃とする。
- (3) 骨材加熱温度・・・・・・・・ 混合温度より 22℃高くして 195 ± 10℃とする。
- (4) アスファルト加熱温度・・・・・・・・ 混合温度と同じ 173 ± 10℃とする。
- (5) 初期転圧温度・・・・・・・・ 転圧温度は、アスファルト製造業者の掲示する条件の範囲より選び 150 ± 10℃とする。